所属： 先導科学研究科　生命体科学専攻
氏名： 金　慧琳
海外派遣先国名： アメリカ合衆国
海外派遣先大学名： Cornell University
海外派遣先大学所属： Department of Molecular Biology and Genetics
海外派遣期間： 2007/07/01 ~ 09/16

海外派遣先大学について

Cornell University は世界でも名門の私立大学でアメリカでは IVY リーグとしてもプライドの高い大学です。ニューヨーク州にある Ithaca キャンパスはアメリカでも東部地方で最も広い大学で、約 2 万人以上の学生が在籍していて 1 万 5 千人の Faculty と Stuff がいます。Cornell 大学は 1865 年 Ezra Cornell によって設立されて現在は約 100 の department がある歴史と規模のある総合大学です。理学系ではノーベル受賞者も多く、とても活発でレベルの高い研究が行われています。特に感心したことは、大学の設立理念とも言える“Any person. any study (Ezra Cornell 1868)”という言葉です。言葉の通り、誰でもどんなことでも学べる大学を設立したということです。学生としては夢のようなこの理念は Cornell 大学ではかなり実現されているように見えました。留学生の割合はとても多く、東アジア系の学生も想像以上に多くいました。そして多様で層の深い Faculty 達が揃えていて素晴しい図書館や研究環境を取り揃えているこの大学で自由に勉強している学生達には、自然と羨ましさを感じました。今まで狭い世界で生きて来た自分としてはそれだけでも大きい刺激と勉強になりました。

A.D. White 初代学長の銅像とその足跡

海外派遣前の準備

1．海外派遣が決まるまで

決して 3 年という博士課程は海外派遣に行くほどの余裕はないと思います。それはよく認識していたので最初から海外派遣という時間を計画していた訳ではありません。幸い研究結果がまとまって論文にする作業が主に残ったのが 2 年の末頃でしたので論文の作業ならネット環境さえあれば何処でも出来ると判断したので、私は 2007 年 1 月に指導教官と相談して 3 年に海外派遣を志望することを決めました。

そして派遣先を何処にするのかはとても悩みました。勿論何を学べることが出来るかを考えて選択するべきですが短期間とは言え治安のことも考えざるを得ませんでした。そしてどちらも考慮して決めたのが Cornell University の Dr. Andrew. G. Clark の研究室でした。まずメールを送りましたが忙しい先生だったので返事をもらうまではかなり時間が掛かりました。しかし私の訪問の要望に対して承諾を得ることが出来て申請の締切りには間に合いました。

2．飛行機

行く時期については選択の余地もなく、6 月末にカナダで開催される学会と 9 月末日本での学会で発表するつもりでいたのでその間に行くことにしました。せっかく 6 月末カナダまで行くのでアメリカはカナダより渡ることになりました。しかし東京→カナダ (Halifax) →アメリカ (Ithaca) →東京の飛行機を予約するのは大変でした。アメリカ国内線と乗り換えを含めて計 6 回の便を乗ることになりましてフライとの日程を決めるのは大変難しい作業でした。今回の海外派遣で最も苦労したことはこの飛行機です。予約も大変でしたが当日日程通り飛んだ便は最後の東京帰りだけでした。何時間も delay されたり、cancel されたり、荷物が届かなかったりして飛行機には本当に疲れました。アメリカの航空会社は日本に比べると不親切でトラブルも多いので飛行機に関しては事前に確認をすることも大事だし心の覚悟も必要だと思います。

3．入国審査

飛行機より気にして準備したのは入国審査のことです。私は韓国籍なのでアメリカの入国にはビザが必要でした(2008年からは短期の観光はビザ無しで入国できるそうです)。ビザは2006年 B1 取得してありましたが行き先が大学で滞在期間が長いので入国審査でどうなるかが心配でした。派遣先の指導教官にそのことを相談したら招待状と私を無給の臨時 stuff に雇うという内容のメールが届きました。実は私はアメリカ行きの飛行機に一回乗ったものの cancel されて結局入国審査を 2 回受けるという面倒な経験をしています。

Halifax→Newyork の便でしたが飛行機に乗る前カナダでアメリカの入国審査をさせられました。一回目は何事もなく通過したのに次の日の朝の2回目の時には見事に引っ掛かりまして別室でしつこく質問を受けました。意外なことに自分が学生であることを総研大の学生証では証明できないことに気づいて求められた時には戸惑いましたが、念のため作って置いた国際学生証を思い出してそれを提示しました。この学生証は意外と使い道があったので色々と助かりました。そして準備して持って行った全ての書類を要求され、コピーまでしっかり取られてからやっと私はアメリカに入国することができました。

4．宿泊先

今回の準備においてまたまた難しかったことは住む所でした。幸い Cornell 大学では学生にだけではなく大学に関わる誰にでもアパートや寮を紹介してくれるシステムがあったのでメールのやり取りだけで情報をもらうことが出来ました。しかし2ヶ月半の短期滞在ができるアパートはなかなか見つかりませんでした。滞在期間が夏休み中だったので短期間アパートを借りることは出来るけど滞在期間中最後の3週間ぐらいが新学期の始まりと被ってしまい、学期が始まってからも貸してくれる所はなかったのです。それで苦労しているところ、ずっとメールの対応をしてくれた国際交流係を担当する Cornell の部署から、私の要望する期間にアパートの予約が可能であるという連絡を受けました。それは学校が運営するアパートで学校にも近いし保証金も払わなくて良いのでかなりラッキーなお知らせでした。このアパートに住めたのは結果的にとても良かったので予約を取ってくれた Cornell 大学の人に感謝、感謝です。

Maplewood apartments

海外派遣中の勉学・研究

私の博士論文は「ヒト特異的な精神活動を基盤とする遺伝子の進化」というテーマです。今回の海外派遣中にはこのテーマについての投稿論文の執筆を主に行いました。論文ではヒト集団の多型に関する議論が多いのです。派遣先の指導教員は集団遺伝学やヒトゲノム研究において優れた業績を持つ研究者で、その先生と研究室の研究者や学生と議論が出来たことはとても良かったです。違う観点での指摘は私にはとても新鮮で良い経験でした。そしてその研究室で行われている研究とその進み方を見たのもすごく勉強になりました。これから卒業して一人前の研究者の道を歩もうとしているものとして自分の分野で最先端の仕事をしている研究室に行ってそこの先生や学生に会って話が出来たことはこれからの自分へのヒントだと思います。それが今回の海外派遣で得た最も大きい収穫だと思います。

A. D. White House & Farrand Garden

さらに Cornell 大学の研究環境は図書館からネット環境までとても素晴らしくて感動の連続でした。心身に狭くて関わりすぎて逃げ場のない葉山とはまるで違う2ヶ月半のお陰で私は久しぶりに平和な精神状態で研究や勉強の楽しさを味わうことが出来ました。研究施設や予算などの研究環境は総研大の学生も負けないぐらい贅沢をしているとは思いますが精神的な空間や時間の広さと余裕はうらやましい限りでした。それは単にキャンパスの場所や広さの問題ではなく大学全体の学生のために動いているシステムや考え方の問題でもあると感じました。

海外派遣中に行った勉学・研究以外の活動

1．旅行そして趣味

アメリカに2ヵ月半もいましたが、Cornell 大学にいる間にできた旅行はただ1回だけでした。旅行とは言え、日帰りのものでした。旅行先は The Niagara Falls、同行は150人ぐらいの外国人。学校のプログラムに参加して観光バスで行った落ち着きのない旅行でした。

アパートからスーパーマーケットに行く道

毎週訪れる終末でしたが私がその時間、旅行に出られなかった理由は、単純に交通便の問題です。私がいた Ithaca という町は私が今までの人生の中で経験したことのない恐ろしい田舎でした。人口は多く土地の狭い韓国と日本でしか住んだことのない私にはあり得ないエリアだった訳です。実際アメリカでは普通の町だと思います。車のない私にはちょっと離れたショッピングセンターに行くにもその移動が大変でした。簡単に言って旅行は無理でした。

私の移動範囲は極めてシンプルで[学校－アパート－スーパーマーケット]でした。頑張ったら歩けるという距離です。いつの間にかアパートで知り合った友達とスーパーに行くことは生活を超えて散歩を兼ねた唯一の趣味に成り立っていました。当然生活は極めて単純で余計なストレスの一切無い American life でした。

2．Cornell University

Cornell 大学は色んな意味で素晴らしかったです。どこまでも広いキャンパスはいくらでも探検できる場所がありました。私は昼休みと週末の時間はキャンパスのあらゆる場所に探検に出るのが日課の一つでしたがそれでも行けなかった場所がまだまだありました。私のとても好きだった場所は Cornell Plantation と言って、キャンパス内の様々な Garden でした。綺麗なお花や木とそしてかわいいウサギや鹿と素敵な時間を過ごすことができました。

Cornell Plantation

場所だけではありません。Cornell 大学はアメリカ内で最も hot な IVY リーグとして選ばれてニュースにもなりました。つまり研究だけではなくスポーツやサークル、公演など学内での様々な活動が活発であるということです。新学期が始まってから私はそれを実感することができました。一週間ほど新入生を歓迎するイベントが行われました。学生だけではなく誰でも参加できるイベントが多かったので私は新入生の友達と一緒に楽しむことができました。一晩ある場所がカジノになったり、広場に屋台が並んでただで食べることができたり、博物館で立食パーティーが開かれたり、芝生の広場で皆と一緒にランチを食べたりしてちょっと想像を超える楽しみが続くのです。学生達は勉強にも熱心でしたが、遊びにも熱心でした。大学もそのバランスの大事さを承知しているのでしょう。

Casino Night at Willard Straight Hall

海外派遣費用について

思ったよりアメリカの物価は高かったです。話を聞くと州によって大分違うそうですが私のいたニューヨーク州は高い方だそうです。家賃や交通費も高くて食品も決して安くありません。特に外食はチップも払うのでとても高いです。結果的に日本の東京の物価と大して変わりませんでした。私はなるべく自炊することで生活費を納めました。

海外派遣先での語学状況

　アメリカなので全ては英語で通用します。韓国人が多かったので日本にいるより韓国語をしゃべる機会は多かったです。しかし日本人には殆ど会えなかったので日本語に触れる機会はありませんでした。私の英語能力はテストなどを受けていないので数字で示すことは出来ませんが元々あまり得意ではありません。英語圏生活も初めてなので心配もありましたが、段々慣れてくると基本的な生活は何とか大丈夫でした。研究の方はまた違う次元の問題で、専門用語が主に使われるのでそれはそれなりに話が通じました。最初アメリカで言葉が下手で一番困ったことは、アメリカ人は先に私の困ったことに気づいて助けてくれる人はなかなかいないということです。何でも困った時には私から声をかけて発信しないと絶対助けてくれないのです。それはコミュニケーションでも同じで私から先に声をかけるまで相手は永遠と振り向いてくれません。その法則を気づいてから無理して積極的になるのも難しかったのですが最初は単純に寂しさも感じました。

海外派遣を希望する後輩へアドバイス

　時間的に余裕があれば是非海外派遣の機会を利用してほしいと思います。自分の専門分野と自分の研究室に慣れすぎで外に目を向ける必要性を感じない人が多いかと思いますが、研究者として自分の発展のためにはやはり違う世界に入り込むことが最も効果的だと思い知りました。しかし行くにははっきりした目標が必要だと思います。単に仕事を組んでそのために行くよりは何を得るために行くのかを意識した方が得るものもその分得られると思います。